

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・集団のきまりや規則やルールを守って安全に学習に取り組んでいる。また、用具の使い方や安全な場の使い方についても、意識して活動できている。
- ・教え合いや助け合いを行う学習を通して、互いに学び合う力が意識できるようになってきた。
- ・ICT 機器を活動に取り入れ、授業を展開できるようになってきた。

(2) 課題

- ・児童がめあてをもって学習に取り組むために、担任が ICT 機器や学習カードを活用するようにした。しかし、学年によって使用頻度に差があるので、全学級で積極的に取り組んでいく。
- ・児童がめあてを達成するために、課題を見つけることはできるが、どのように改善、解決していくのかの方法を選ぶことができる児童が少ない。また自らの成長を振り返り、次時につなげることが難しい。
- ・昨年度の体力テストの結果から、本校児童のソフトボール投げに課題があった。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
運動の楽しさや喜びに触れながら基本的な動きが身に付くよう、ICT 機器を用いて動き方の視覚的な理解を促したり、友達との交流活動を行ったりする。	各種の運動遊びにおいて、教師が動きの狙いを把握し、そのねらいに合った動きを認めていく。児童がめあてをもって主体的に活動する授業展開に取り組む。	児童が規則を守って楽しんで運動に取り組めるような活動を設定する。 ペアやトリオなど、最小限の人数でグループをつくることで活動の機会を増やし、協力して取り組むことができるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
ICT 機器を用いて、ペアやトリオで互いの動きを確認し教え合いながら技能を身に付けられるようにする。 グループの中で、互いの運動の様子を見合い、アドバイスをし合って、技能の向上を図る。	児童がめあてをもって、自分たちの実態や学習のねらいに合ったルールを考えて活動できるようにする。 課題解決の方法や活動を工夫させるために、教師が工夫の例を提示したり、自己の運動の様子をタブレットで確認し動きのポイントと照らし合わせたりして自己の課題を見付けられるようにする。	児童の多様な動きを認める。学習の振り返りでは、自分や友達のよい動きや態度に注目し、小さな技能の向上を評価する。 教師が事前に練習の仕方や動きのポイントを明確に示し、児童がきまりを守って、誰とでも仲よく運動に取り組めるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<p>心の健康について、人との関わりが大切であることに触れ、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いて理解したりできるよう、コミュニケーションを多くとるようにする。</p> <p>正しい動き方や自分の動きを知るために、ICT 機器を活用し、基本的な動きを身に付けるようにする。</p>	<p>どの単元でも1時間ごとに振り返りをする時間を設定する。また単元での学習が終わったら、自らの成長を振り返るようにする。</p> <p>ゲームやボール運動では、グループやチームでホワイトボード等を使い、作戦を考える時間を設定する。</p>	<p>児童一人一人の興味・関心に合わせた多様な場を用意し、運動の特性やよさを実感できるように指導し、運動有能感を高める。</p> <p>ペアやトリオなどのグループ活動を通して、協力し合うことでよりよい課題解決の方法に取り組めるようにする。</p> <p>ICT 機器を用いて学習カードや自己の技能の高まりをふり返られるようにし、成長を実感できるようにする。</p>